

令和6年度 第2回 郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会 議事録

○開催日 令和6年11月25日(月) 11:00～

○開催場所 仙台市役所 上杉分庁舎 12階 教育局第1会議室

○出席者

(委員)

山形大学学士課程基盤教育院教授 荒木 志伸 (オンライン)

仙台市教育局学校教育部学びの連携推進室

主任兼学力向上サポーター(社会科) 伊藤 恵子

東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター教授・センター長 北野 博司

石巻専修大学 経営学部経営学科 専任講師 菅原 玲

東北学院大学文学部歴史学科 教授 永田 英明 【委員長】

郡山地区連合町内会 顧問 松 公男

山形県立米沢女子短期大学 日本史学科 教授 吉田 歆

秋田大学教育文化学部名誉教授 渡部 育子 【副委員長】

※敬称略・五十音順

(オブザーバー)

宮城県文化財課

技師 大沼柊平

(事務局)

教育生涯学習部長 伊勢文葉

文化財課長 長谷川蔵人

文化財課整備活用係長 佐伯修一

主事 妹尾一樹

会計年度職員 長島栄一

(報道機関) 1名(河北新報社)

(傍聴人) なし

○議事(要約)

(1) 協議事項:「史跡仙台郡山官衙遺跡群整備基本計画」について

(2) 報告事項:令和6年度郡山遺跡発掘調査について

(1) 協議事項:「史跡仙台郡山官衙遺跡群整備基本計画」について

(永田委員長)

今日の委員会は、協議事項として「郡山遺跡の整備基本計画」の検討の方に入っております。

その素案の中で前半部分、1章から6章の触り、導入部分まで資料を準備して頂いているので、それを検討したいというふうに思います。

そのあとで、郡山遺跡の、現在また興味深い調査の成果が出ておりますので、そちらの報告についてもいただくという段取りになろうかと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。事務局の方から説明をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

(事務局) 省略

(永田委員長)

今回は前半の部分ということなので、整備基本計画では保存活用計画をベースにしながら、基本的な認識というかそういうところをどう書き込むかというのが、今日の話の中心かなと思います。今の説明の中で、追記していただいた部分をいくつかお示ししていただきましたし、それから6章のところは、少し具体的な話にもなってくるころかと思っております。その辺も含めて

まずは全体的にお気づきの点等、委員の先生方からあればご自由をお願いします。いかがでしょうか。

(北野委員)

本文の67ページの基本方針のところに、コストに留意した整備ってあるので、その通りなのですが、行政が作る計画であんまりこういうふうに書いてしまうと、何かケチ臭いなって正直思っています。私が言ったのは、(あくまで)メンテナンスコストも含めての話なので、持続可能性に留意した整備を行うとか、何かもうちょっとオブラートに包んだ方が、良いのではないかと思ったのですけれども。ちょっとそれは、どうするか事務局でご検討いただければいいのですが……。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。こちらの方で今いただいたお言葉も踏まえて、少し言葉のニュアンスを変えていきながら、進めていきたいと思います。

(永田委員長)

やはり持続可能というニュアンスの方がいいですよ。今回、新たに加えていただいた第1章-3のところ、地域住民との意見交換っていうところでしょうか。10ページですね。地域の住民の方とか、或いは、子供たちとか、色々な形での意見の集約をしてみたいというようなことで、計画の中でいただいています。このあたりもどうですかね。やはり方法であるとか、あるいはこういうやり方もあるよとか何かございませんか。

(北野委員)

これもその通りで、これでいいと思うのですが。私が言った趣旨は、整備のプロセスに住民が参加するとか、活用の事業もこれからたくさんあるし、「保存活用計画」でも随分やっておられると書かれていたので、そういうところに、地域住民が参画していくような計画があればいいなということです。もちろんこれが前提になるのですけれど、そういうことを、この先検討していただければと思いました。

保存・管理の事業そのものにも市民が参画するというスタイルも、結構あちらこちらであるので、ここの土地になじむような手法を開発していくとか。どこでも、どこかで成功しているものを、(ただ)持ってくればできるってわけではないと思うので、そういう研究をした上で、事業化できればいいかなと思いました。以上です。

(松委員)

遺跡の発掘調査をやっていると、地元(住民)から「何かまた出たの?」と興味が出ているのです。ですからスケジューリング的なものを、看板だけ出すのではなくて、こんな形でやっていきたいというニュアンスが伝わると、住民の方も興味をまた持つのではないかと、そういうふうに思います。

(事務局)

北野先生からまずご意見いただきました部分につきましては、まず地域の方々と整備を協働的にやっていくにあたって、地域の方が何を求めているかを把握するために、10ページに大きく三つの層を対象にご意見を頂きたいと考えているところでした。

松委員のご意見に関しましては、今発掘調査している場所は、12月7日に遺跡の見学会をいたします。その遺跡見学会の実施にあたっては、例えば小学校や中学校の方に積極的に宣伝するとともに、地域の方々にちょっと周知する形で調査の成果を知ってもらおう工夫はしたいと思います。

(渡部副委員長)

現地説明会は古典的なやり方ではありますが、一番の基本、学術的にも意味があり、なおかつ地域住民の方にとっても「隣で何を掘っているのだろう」という、情報としてはまだ学会発表できないような一番新しい情報を与えられるわけです。現地説明会も確かに調査が終わらなければいつやるのか予想は立たないかもしれませんが、大体で構わないのでいつ頃というのを少し前から発信する。市のウェブ上ではもちろんですが、広報のようなもので郡山遺跡のことだけではなく、仙台市で関わっている遺跡についても周知されるとより良いかと思います。まだ学会では発表していない、最も新しい情報が得られる。学会と言ってしまうとハードルが高く感じてしまいますけれども、その辺を少しわかりやすく一般市民の方に説明する、そういう方法も有効なのではないかと思っております。

(事務局)

ご意見いただいた通り今回は現地説明会をさせていただきますけれども、当課で運営しております SNS・X (旧 Twitter) で、どこまで公表できるかですけれども、もう少しリアルタイムで一般の市民の方々にも調査の状況を知っていただく機会を設けていくことが大事かと思えます。それに加えて、地域住民の方が自分のお住まいの近くで発掘調査をやっている、そこに対して今度気軽に説明会やるので、来てくださいといった、案内を周知するやり方っていうのも、やはり今後その地域に親しまれる遺跡を目指す上では重要ななというふうに思いましたので、その地域の方への情報の届け方も考えながら取り組んでいきたいと思えます。

(松委員)

もちろん、地域で広報活動については全面的に協力したいので、連合町内会を通してやっていきたいと思えます。

(永田委員長)

広くということもありますが、直接に支えていただくことが一番多いのはやっぱり地域の方々なので、地域の方々が参加意識を持てるような形を作っていくにはどうしたら良いのかというのが大事かと思えます。今回の意見聴取にもそういうことへの基盤になると思えます。それを踏まえてどういう形で、地元の方々に参加していくような形をつくれるかということ、第6章の計画の中にも盛り込んでいく必要があると思えます。

ちなみに、この意見交換については、スケジュール感としては、どんな感じでしょうか？

(事務局)

今のところ意見聴取の場としては、策定までの間の中で設けたいと思えますので、早ければ年度内にまず、何らかの形で1つやれば良いかと思っております。

(菅原委員)

23 ページの人口表をつけていただいたところから明らかになっていますが、このエリアの人口の層が働き世代のピークなので、この説明会に非常に難しさが出る可能性があります。やっぱり私も以前別の地区で、説明会をしますといった場合、非常に多くの方には参加してもらえますのですが、高齢者の方が多く働き世代とは話がちょっと乖離していることがありました。開催方法の工夫が、やっぱり成功に繋がるポイントになると思われま。

③番目に「小中学生へ」ということでありますがやっぱり学校と抱き合わせぐらいで行わないと、お母様もお父様ちょっと来づらいのかなというところがありますので、そこは開催の工夫をされた方がよろしいかなと思えました。

お父さんお母さんが、この①番と③番がどちらかという、連動するような質問設定をしたほうが良いと思っております。例えば学校で取り組む時にお母さんやお父さんはどういうことだと子供たちの成長にとって良いですかとか。あとやっぱり子供会を通じて、どういうふうに参加した方が良いですかとか。

それと広く仙台市のことを考えると、高校生ぐらいまで、後は場合によっては大学生の目線も入れるとか、とにかく教育の流れとして切らないような流れがあると面白いかなという

ふうに感じました。ちょっと話が飛んでしまいましたが、ちょっと年齢層が30代・40代がすごく多いので、開催の工夫をされて、場合によっては協力できる人たちの層を増やすというか、何かそんな雰囲気が必要かなとちょっと思いました。意見というよりは感想に近いですが、以上です。

(事務局)

我々としても、子育て世代の方々と繋がる媒体としてやっぱり学校が一番だろうと思っております。先ほど小中学生、高校生もそのターゲットの一つとして考えられるかなと思いますし、あとその後ろにいるその親御さん世代、そこの繋がり方というか、そこは近隣の小学校や中学校の先生方と相談をさせていただいて、アンケートの聴取方法や会の持ち方も、学校を介しながら何かとつながれるような場の設定を検討していきたいと思います。

(伊藤委員)

まず菅原先生がおっしゃったように子供と保護者世帯、保護者を巻き込むには子供とセットが一番かなと思うので。夏休みとかにこの遺跡を、一緒に見てみようとかそういうイベントをすると親子が多数参加するかなというふうに思います。

あと、近くの学区内ということで考えると駐車場とかも、あまり心配せずに徒歩で来てくださってというところでやりやすいのかなっていうふうに思っていました。

アンケートでもここに書いてあるのですが、この結構な児童数の小学校のところで考えると、たくさんの情報を得ることも必要なのですが、あんまりそのアンケートばかりやるのも労を多くしてあまり得るものがないというか、なかなかどうなのかなっていうふうに思います。それはちょっと形だけになってしまわないと良いかなとちょっと危惧しておりました。

次ですが、先日メディアテークで文化財展を見に行きまして、素晴らしいなあと見てきました。思ったことは、まず地域の方に、その遺跡を愛してもらって、「この遺跡はこうなのだぞ」というようなサポーターの仕組みをやっぱり整えるってことがすごく大事なのだろうなと思いました。

これからの住民説明会や現地見学会を通して、その遺跡を私たちがこの仙台市の方々に広めるのだってというようなサポーターの方を育てていくというか、頑張ってくださいような連携をとるような役割が必要だと思いました。

その上で、その地域と繋がる上では、結構市民センターが核になるのではないかと考えております。その郡山地域の市民センターなどを活用しながらいく、あと市民センターの辺りとか祭りのところもやっぱりアンケートだけではなく、こんなことやっていますよというような展示とか広報活動はすごく良いのではないかなと思います。市民センター祭りは、地域の方々が老若男女集まりますので、そういうところで地域に向けてこんなことを文化財課ではやっていますよという方法が良いのかなと思いました。

ああいう機会に、仙台では郡山遺跡ではこんなことやっていますっていう情報発信が、SNSを活用しないような世代の方にも関心を持っていただけるとと思います。SNS世代にツイッターで広く知っていただくことも必要ですが、そこに行かない歴史好きの方々に関心を持っていただく方法、そういうことも模索していただけたらいいかなと感じました。

(事務局)

保存活用計画の中の活用の中でも謳っておりますけれども、やはりその近隣学校の子供たち、親子で参加できるイベント実施ができるよう検討していきたいなというふうに思います。

仙台市内に様々な遺跡があって、その地域その地域で、遺跡を愛してくださる、そしてそのサポートしてくださる方がたくさんいらっしゃいます。郡山にも地域研究会があり、八本松市民センターを拠点にしていますので、今後は市民センターを介しながらその地域の方々、その遺跡を、郡山を愛してくださる皆さま、そのバックアップしてくださる方々を、計画の中にもあります「人材育成」という面で取り組んでいければと思います。

(永田委員長)

そうですね。ただアンケートを取るだけではなく、そのアンケートに参加すること自体がもうこれから作っていく参加の第一歩なので、そこの周知というか。

(菅原委員)

アンケートの作り方をもしかすると工夫する必要があるのかもしれない。

(松委員)

ちょっと厳しい言い方になるかもしれませんが、私からすれば地元でね、ここに遺跡があるよっていう話はよくしますけれども、本当に見せるものがないです。多賀城と比べて遅れをとっているのを（私は）地元で感じているのです。正直言って。やっぱり人を集めるのに、ここはこうだよと見せ物がない。やっぱりここにあって、あそこに今「掘っていますよ」、「何が出てきたの?」と言っても説明も誰もする人もいない。そういう状況の中で看板だけ見てくださいではね、ちょっと時間がかかり過ぎているのではないかと。もう発掘調査が始まってから50年近く経っているわけですから。何か現実的（復元的?）なものがあって欲しいなというふうに思うのです。

(渡部副委員長)

「親子で体験しよう」ですとか、「親子で歩こう」ですとか、そういうことで夏ですと一日のイベントはちょっときついとしても、半日ですとか。そういうイベントの企画時に、お土産として冊子を参加者に差し上げますというようなことで少しずつ（市民の興味を）形作っていくのも良いかなと考えております。

キャッチコピー「親子で」っていう。私が最初に何に惹かれたかというと、この（冊子）素敵だなっていうところに目がいきました。それからということもありますので、一つ一つ積み上げるのもありではないかなと、今2人の委員の先生のお話を聞いてそのように感じました。

(事務局)

現在、現地には案内板しか見せるものがないですけれども知ってもらう機会を何らかの形でふやしていければと思います。

(永田委員長)

今回は意見交換の話が中心になりましたけれども、その他のところも含めて改めてまたご意見いただければと思います。次回、第7章以降でさらに具体的などころに入っていくので、その基本的な考え方を整理しておく必要があるかと思います。第5章のところの基本理念や基本方針は、これまでも議論してきたところではありますが、それから第6章のさわりのところで色々な問題点を整理することも入ってくるかと思います。この辺についても少しご意見を頂ければと思います。

(北野委員)

今後の進め方にも関わるのですが、今回現状と課題を全部整理していただいて、これ保存活用計画から来ていると思うのですが。例えば、整備基本計画の70ページ・71ページを見ていくと、ゾーンごとにその整備の現状と課題で対応方針が、整理されています。非常にわかりやすいのですけれども、このうち、8年間でやる事業を、この6章の「個別計画」に書き込んでいくということですよ。方針が決まっていたら教えて欲しいのですけれども。一応、やらなきゃいけないことを全部書いておいて、8年間ではこれだけ整備やりますよという作りをするのか。それとも8年間でできることだけをこの個別計画に書いていくのかということをお教えしたいということなのです。

(事務局)

まず、第6章の個別計画で、目次に記載させていただいている項目は、現状の公有化状況に合わせて整備を目指す内容を記載しております。現状考え得る最大限の整備の状況というものをゾーンごとに第6章の第1項で示しております。実際に8年間でこれすべてできるかというのと、(あくまで計画上の話なので)なかなか難しい部分があると思いますが、今回の計画では、ゾーンを設定した中で、さらに優先順位をしっかりと示して、「まずこれをやります」「次にここに手をつけます」というようなものをお示しできればという形で考えています。

(北野委員)

わかりました。そうすると前期計画・後期計画の全体を一度書き込んで、最初の前期計画についてはかなり具体的に書き込むと。それからチェックしながら、7年目ぐらいで見直してもう1回こういう計画を第二期計画として作るというふうになるわけですね。そうするともう14節まではほぼ全部書き込むことになるということですか。

(事務局)

今回目次として提案しているものに関しましては、今後すべて書き込んでいくこととなります。

(荒木委員)

先ほどから活用というか、それに向けてのご意見を伺っていると、発信の仕方というか、その周知の仕方がたいなもの、どういうふうにしていくのかなというのが、具体的にこれから検討されていくのだと思うのですが、先ほどの23ページの年齢層ですね、結構やっぱり30代から50代ぐらいの働き盛りの方がすごく多くて。あと、それから小さいお子さんも結構いらっしゃるのだなというのが、驚いたのですよね、正直。

もう本当に40代以下ぐらいの方というのはテレビも見ない、チラシも見ないみたいで、そういう人たちが結構年齢層としては多くて。そういう人たちにとって双方向の空間みたいなものとか場を例えばYouTubeやオンデマンド形式でのネット上での配信や発信という形でその世代への発信方法について検討頂ければと。

(永田委員長)

やっぱり皆さんが気になるのは、発信の仕方とか参加感をどうやって高めていくのかということかなと思います。YouTubeの件について何かありますか。

(事務局)

広報用で「周知・啓発用DVD」も作成して広報している部分はありますが、DVDだけではなく、YouTubeのような別媒体で上げられるような仕組みづくりはできると思いますので、ぜひやってみたいと思います。

(吉田委員)

私も広報は、一番力をお入れになった方がいいのかなというふうに思ったところです。例えば、小学生と中学生にアンケートをお取りになるという素案が一つあるかと思うのですが、もうちょっと丁寧にやっていく必要があるのかなと思います。

小学生に聞く聞き方と、中学生に対する聞き方と。小学生についても低学年に対する聞き方と。ある程度目鼻が立ってきたら5・6年生に聞く聞き方と。いろんな多分階層差があるかと思う。その辺のディティール感をもうちょっと今後詰めていく必要があるのかなというのは、一つ感想として思ったところです。

あとはそのアンケートをとる前に、基礎知識、基礎的な情報をやっぱり子供達にわかってもらった上で、聞くと、若干誘導質問になりますけれども。これが一体何なのかをわかった上で、「君らならどうする？」という聞き方をしてあげる必要がある。まあ、ワンクッションちょっと面倒ですけども、あるとより親切なのかなと思います。ワンクッションをどういうふうに着替えるかというのは、いろいろな考え方があろうかと思いますが。

それこそ低学年あたりですと夏休みの発掘体験にでも来てもらって、シャベルを持ってもらおうと、若干実感も湧くでしょうし、その辺は考え次第ですけれども。ちょっと学校現場の先生方をうまく丸め込んでいただくというのも一つ手なのかなと思います。

YouTube も荒木先生がおっしゃる通りで、富谷市でも山城を掘ったやつを、発掘現場の現地説明会をやっていました。なかなか良い感じの加減できていて、よかったなと思います。ああいう感じのでもいいのかな。ですので、そういうのをタイミングよく上げていくと、食いついてこられる方もおられたりするのかなと。ちょっと手間かかることしか申し上げていなくて、大変申し訳ないのですが、できる範囲で検討していただくのも一つ手なのかなという気はします。

(事務局)

アンケートの取り方につきましても、先ほどからも先生方からもご意見いただいておりますので、取り方は少し精査しながら進めて参りますし、YouTube の件につきましても、できるだけ多くの人たちに知ってもらえるような形で進めていきたいと思っております。

(北野委員)

基本方針に関わるところで実はこの郡山遺跡の整備って、史跡整備にとってすごくネガティブに考えていたのは、やっぱりああいう都市の中にあって、開発もかなり進んだ中で、なかなか国府という遺跡の広がりを感じさせづらく、なかなか難しいなど。東北の中ではやっぱりこういう史跡整備ってあまり例がないし。でもよくよく考えると逆にそれを強みに活かした、全国的にも、首都圏はどうなのかわからないけれども、面白いことできるのではないかなと。

というのは、昨日も私地元である石川県で石川県立図書館に行ってきました。話題の図書館、もう3年ぐらいオープンしてから経つのですが、あれは図書館という、非常に重要な機能を果たしつつ、コミュニティの場としての開放というか、活用を重視した施設ですよ。まちづくりとしての図書館、新たな図書館・空間を創出する。郡山もああいう都市の中に、歴史空間がポンとこうできてくるわけなので。そこをもうちょっと人が集えるような、芸工大の馬場先生が、例えば仙台市役所を、私はあまり詳しい設計はわかりませんが、1階部分をかなりそういう人の交流の場として設計されているという話を聞いていますし。

さっきの人口のグラフを見ても、ちょっと今までにない遺跡の社会環境だと思うのですよね。そういうまちづくり・コミュニティとしての遺跡空間というのを、もう少し前面に出したような思い切った実験的な整備もあっていいのではないかと思います。あまり今具体的な話は出ませんが、基本方針に関わるところで、そういう提案をさせていただければと思っておりました。具体性がなくて申し訳ありません。

(永田委員長)

ありがとうございます。やはり都市の中の強みというのは、前の活用計画の中でも謳っていることですし、コミュニティとしての活用という部分でも、先生がおっしゃられたように2次活用というか、持続活用のようなことも重要なところかなと思います。ありがとうございます。県の大沼さん何かお気づきのことなどありませんか。

(宮城県・大沼様)

まず、やはり皆さま委員の先生方からいろいろ意見をいただいた周知の部分だと、アンケートとか住民の方との意見交換で、ここで特に小中学生の自由な意見が欲しいというところは新たな視点かなと考えております。そこに関しましては、郡山の保存活用整備計画を進めていく上でも重要になってくる部分かと思いますが、今後、他の県内の保存活用計画を作成していく分においてはモデルケースになっていくようなものだと考えております。委員の先生方から言って頂いた意見をまとめていただいて、やり方を工夫してやっていただければと考えております。整備のところに関しましては、先ほど松委員の方から多賀城と比べてというお話もありましたが、県の方では多賀城と連携して整備を進めています。郡山遺跡と多賀城が今ある場所が都市部と郊外で在り方の違いはあります。ただ、多賀城と連携して東北の古代像を作っていくという点では関わりがあるかと思っておりますので、繋がっている部分と違う部分というところがありま

す。そこをここで具体的にどうしたら良いのか言うのは難しいのですが、違う部分と繋がっている部分を明確化することで、今後の東北の古代像を作っていければと考えておりますし、県の方でも市と連携してやっていければと思っております。

(渡部副委員長)

申し訳ございません。今更気付いたのかと言われそうですが、用字用語の問題ですが、例えば、28P。平仮名使うか、漢字使うかということで、統一した方が最終版はきれいかと思えます。下から7行目、「すなわち、7世紀中頃から末葉にかけて」の「ころ」です。これが例えば、33Pでは「末ころ」で平仮名、45Pでは「中ごろ」で平仮名、57Pは「中頃」で漢字です。もしこれを最後1冊として出すとすると、用字用語の統一は必要かと思えます。

(永田委員長)

次回も本件については、今度はその後の6章以下の部分の検討・議論もしていくということになろうかと思えます。今日の意見も含めて更に意見を精査していただいて、素案を作ることになろうかと思えます。

(2) 報告事項：令和6年度郡山遺跡発掘調査について

(永田委員長)

それでは続きまして、報告事項「令和6年度郡山遺跡の336次調査について」、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

(事務局) 資料4の説明(省略)

(永田委員長)

それではご質問等あれば、よろしく願いいたします。私も先日(郡山遺跡を)拝見させていただきました。現地説明会も非常にしばらくぶりだというお話を聞きまして。

(事務局)

16年ぶりです。

(永田委員長)

非常に素晴らしい成果をお見せできるのかなと思えます。なかなか、遺構も、政庁も、使い方の考え方であるとか、まだまだ掘れば掘るほど謎が増えてきて難しいなと思えます。今日は見学の機会もありますので、詳しいことにつきましてはそこでご検討いただければと思えます。

(菅原委員)

資料4の件とはもしかしたら違うのですが、先ほど松委員の地域の方のご要望に対してなのですが、おそらく目に見える形でアプローチができるようになるには、示されている通りかなりの時間がかかるはずなので、その間をどう埋めていくかということになるかと思えます。この遺跡はいつ頃から(調査を)やっていて、「やっとここまで来ているよ」という。「今こういう状態だよ」「これぐらいやっぱり進むには時間がかかったのだよ」とかっていうことの、簡潔な物語みたいなのを、例えば、町内会の方に共有するとか、聞かれた人が答えやすいような共通したストーリーを、ある程度キーになる方に提供しておいて、「仙台市さんのあれ待っているよ」っていうだけではなくて、「今、仙台市さんと一緒にここまで進んでいるよ」っていうその、やっぱり待っている気持ちを埋めてあげる何かのハンドアウト資料ももちろんそうですし文化財課の皆さんから知見をいただいて。ある程度こういうことが、今私たちが立っている場所だということをお示しできるような物語があれば、ご納得していただけるのかなというふうにちょっと思っています。

そういうお話を子供さんなんかにも、「今ね、自分たちが立っている何丁目何番地はここだ

よ」ってということがあれば、アンケートに対しても、じゃあ次のステップに行ってみたいと思うことが想像できるかなという気がする。これをちょっとご説明してくださいって見えるような。なんか長い歴史的な研究事例とかって言うより、「これぐらい今かけてやってきている」よとか。「何十年前から始まっているけど、こういう理由で長くなっているよ」とか。

「多賀城との違いは大きなことはこういうことだよ」とか。ポイントごとにわかるようなことがあれば、何か少しご納得いただけるのかなというように気がしています。やはり地元の方のお気持ちが、いつになったら、どうなったらっていうのが、待ちくたびれて嫌になっちゃうっていうのが可哀そうだなと思いました。

(永田委員長)

色々な各地の遺跡でもやっぱりストーリーというか、遺跡を解明するのにこれだけのトライ&エラーがいっぱいあるし、その中でも地域の人たちとこういうふうに関わっているという。だから、そういうことと今後のことも含めても、見せ方というのが確かに必要なのかもしれない。そういう意味でも『郡山遺跡物語』についても、もう少し考えていく必要があるのかもしれない。

(長谷川課長)

本日も各委員の皆様には大変貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。今後も、郡山整備基本計画、引き続きいただいたご意見を踏まえて、素案のブラッシュアップを行って参りたいと思います。

なお、本日午後、郡山遺跡視察していただきますけれども、来週の土曜日、12月7日土曜日には一般市民の方向けの見学会、現地見学会を開催いたします。その前、4日水曜日には、報道の方々向けの発表というのをおあわせて行う予定としてございました。それで、次回、第3回委員会につきましては、3月の初めの開催を予定してございます。事務局からは以上になります。

閉会